

## CONTENTS

特集 新館 10 年のあゆみ	2・3
春季企画展 資料が秘めた物語Ⅱ	4
夏季企画展 箕作博士の水族館	5
NEWS FILE	
新型コロナウイルス感染症への対策について	6
資料館展示品から	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 26

September, 2020

華岡門人で大坂分塾合水堂へ嘉永4(1851)年6月12日に入門した、吉野郡川上村の岩崎忠之助の足跡を追って、初めてこの地を訪ねたのは25年前の平成7(1995)年でした。当時はまだ英田郡大原町で、町史にも忠之助の名は見つかりませんでした。現地調査によって、写真左端の土蔵の右にある竹藪の一郭が屋敷跡で、墓は屋敷裏の山中にあると判明しました。墓誌には「字は忠之助、諱は温孝。紀伊の華岡随賢先生のもとで数年学んだ後に内科・外科医として開業し、慈しみ深い治療を日々施したので、世間の評判も高かったが、惜しいことに慶応3(1867)年8月18日に36歳で病没した。…」と刻まれています。

(美作市川上) 文・写真: 名誉館長 下山純正



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

# 洋学資料館 新館10年のあゆみ

昭和53年に、旧妹尾銀行林田支店の建物を後利用して開館した洋学資料館。平成22年3月19日に新館へ移転・オープンしてから、本年で10年を迎えました。たくさんの方に支えられて迎えたこの10年、新館開館から5年までのあゆみは機関誌No.14でご紹介しましたので、今回は6年目から10年までのあゆみを振り返ります。



▲新館開館5周年記念 企画展

◀オランダ総領事をお迎えして テープカット

## 平成26年度

- 10・11 新館開館5周年記念企画展
- 10・11 「平戸松浦家伝来の至宝」
- 10・11 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「江戸幕府が選んだ鎖国政策」
- 平戸松浦家史料の魅力」
- 東京大学教授 山本博文先生
- 明海大学教授 若下哲典先生
- 11・22 企画展「生誕190周年記念 箕作秋坪」
- 11・22 「箕作秋坪の祖菊池家の史跡を訪ねて」
- 11・29 第27回友の会史跡見学会

## 平成27年度

- 1・25 オムニバス講演会
- 「意外に知らない?! 箕作秋坪の真実」
- 2・22 冬季講演会「実感！ 体感！ 含密開宗」
- 現代化学者が語る宇田川榕菴のすゝめ
- 津山工業高等学校准教授 廣木一亮先生
- 3・21 企画展「久原洪哉生誕190周年記念」
- 津山藩医久原家の幕末・明治」
- 4・18 平成27年度 第70回文化講演会・友の会総会
- 「近世日本とオランダ 日欧文化の交流と融合」
- 熊本県立大学准教授 平岡隆二先生
- 4・23 榕菴関係資料、市重要文化財に指定
- 5・24 第35回友の会研修バス旅行
- 「川本幸民ゆかりの三田まち歩きと UCCコーヒー博物館を訪ねて」
- 6・27 企画展「資料受託記念 明治天皇の侍医頭 岡玄卿」
- 7・25 親子でスタップホストの作品づくり
- 7・25 ヒンデローベン 絵付け体験教室
- 7・26 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8・9 企画展「解剖図の世界・江戸から現代へ」
- 9・5 企画展「津山藩の絵師 鋳形家と洋学者」
- 10・17 企画展「月田に残る在村医たちの足跡を訪ねて」
- 11・29 第28回友の会史跡見学会

## 平成28年度

- 12・19 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「ペリー来航絵巻「金海奇観」をめぐる人々とその思い」
- ・ 鋳形赤子、箕作阮甫、箕作秋坪、宇田川興齋」
- 明海大学教授 若下哲典先生
- 洋学史学会理事 下山純正先生
- 1・31 オムニバス講演会「数にまつわるはなし」
- 2・14 冬季講演会
- 「新たに発見された4枚の湿板写真をめぐって!! 箕作阮甫の実像に迫る」
- 洋学史学会理事 津山洋学資料館元館長 下山純正先生
- 2・20 企画展「日本とロシア」
- ・ 箕作阮甫・秋坪の対露交渉」
- 3・26 久原躬弦関係資料、化学遺産に認定
- 4・23 平成28年度 第71回文化講演会・友の会総会
- 「出島における黒坊について」
- 東京大学史料編纂所共同研究員 イサベル・田中・ファンダーレン先生
- 7・2 企画展「言の葉の海へ」
- ・ オランダ語翻訳に挑む」
- 7・25 親子でヒンデローベンの作品づくり
- 7・30 ヒンデローベン 絵付け体験教室
- 7・31 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8・6 友の会創立35周年記念研修バス旅行
- 「幕末の雄藩 佐賀が育んだ蘭学史跡めぐり」
- 9・10 企画展「生誕170周年記念 日本近代法学の祖 箕作麟祥」
- 10・8 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「海外留学の志、波瀾を越えた津田真道の思い」
- 東洋大学教授 若下哲典先生
- 慶應義塾大学准教授 大久保健晴先生
- 津山洋学資料館元館長 下山純正先生
- 11・19 友の会創立35周年記念祝賀会
- 11・19 企画展「山田純造生誕180周年記念 海田の医家 山田家の人と学問」

## 平成29年度

- 12・4 企画展関連講座
- 「よみがえる山田家伝来の家伝葉」
- ・ 成分分析の結果と処方再現」
- ・ 就実大学薬学部 齋藤啓太先生
- ・ 就実大学薬学部 佐々木寛朗先生
- ・ 就実大学薬学部 洲崎悦子先生
- 12・10 第29回友の会史跡見学会
- 「足守・金川・境の洋学史跡を訪ねて」
- 1・29 オムニバス講演会「洋学あれこれ」
- 企画展「箕作家の人々」
- ・ 秋坪の4人の息子たち」
- 3・12 川崎医療福祉大学合同講座
- 「医の世界を志す君たちへ」
- 川崎医療福祉大学准教授 横田ヒロミツ先生
- 川崎医科大学准教授 浦上淳先生
- 4・23 平成29年度 第72回文化講演会・友の会総会
- 「箕作の名をもらった魚たち」
- ・ 神奈川県立生命・地球博物館学芸部長 瀬能 宏先生
- 7・1 企画展「和時計・西洋の技、日本の心」
- 7・29 親子でヒンデローベンの作品づくり
- 7・30 ヒンデローベン 絵付け体験教室
- 7・30 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8・5 自分だけの「解体新書」を作ろう
- 8・26 第37回友の会研修バス旅行
- 「特別展「よみがえれ！ シーホルトの日本博物館」と富田林寺内町の町並みを訪ねて!!」
- 9・10 企画展「絵画史料に見る江戸の洋楽事始」
- 10・7 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「磯野計生誕100周年記念 明治屋創業者 磯野計とその時代」
- ・ ヨーロッパの経営思想と食文化へあがれ」
- ・ 東洋大学教授 若下哲典先生
- ・ 高知工科大学准教授 生島 淳先生
- 10・14 津山洋学資料館元館長 下山純正先生

## 平成30年度

- 11・18 企画展「日本の化学の夜明けと 津山の洋学者」
- 12・10 第30回友の会史跡見学会
- 「井原市芳井町梁瀬の洋学史跡を訪ねて」
- ・ 緒方郁哉・阪谷朗脈・山鳴大年」
- 1・28 オムニバス講演会
- 「菊池大麓つてどんな人？」
- 3・10 企画展「明治100周年記念 洋学資料館所蔵資料から見た 文明開化と美作の医学」
- 4・28 平成30年度 第73回文化講演会・友の会総会
- 「平賀源内と博物図譜」
- ・ 元香川県立ミュージアム学芸員 松岡明子先生
- 6・2 第38回友の会研修バス旅行
- 「平賀源内の故郷めぐり旅」
- 7・7 企画展「洋書が伝えた不思議な生き物」
- 7・28 親子でヒンデローベンの作品づくり
- 7・28 ヒンデローベン 絵付け体験教室は台風で中止
- 7・29 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8・4 自分だけの「解体新書」を作ろう
- 8・25 友の会通信創刊
- 9・9 企画展「天を測り地を量る」
- 10・6 企画展記念講演会「天を測り地を量る」
- 国立科学博物館産業技術史料情報センター長 鈴木一義先生
- 10・18 第31回友の会史跡見学会
- 「大條・下高倉の史跡を訪ねて」
- 12・1 企画展「美作地域の華岡門人」
- 12・9 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「病とむきあう」藩医たち、江戸の医療倫理」
- ・ いづも財団事務局次長 梶谷光弘先生
- 1・27 オムニバス講演会「測量隊、津山を歩く」

## 平成31・令和元年度

- 3・9 企画展「生誕250周年記念 杉田玄白門人 小林令助」
- 7・6 平成31・令和元年度 第74回文化講演会・友の会総会
- 「真珠王 御本幸吉と箕作佳吉」
- ・ ミキモト真珠島真珠博物館長 松月清郎先生
- 7・16 第39回友の会研修バス旅行
- 「但馬路の史跡を訪ねて」
- ・ 但馬聖人の私塾「青衿書院」と城下町出石」
- 7・27 企画展「箕作家の歴史研究」
- ・ 西洋史はどう伝わったか」
- 7・28 親子でヒンデローベンの作品づくり
- 8・3 ヒンデローベン 絵付け体験教室
- 8・4 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8・8 自分だけの「解体新書」を作ろう
- 9・8 洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
- 「フランス近代史研究の今・むかし」
- ・ 東京大学准教授 長井伸仁先生
- ・ 東洋大学教授 若下哲典先生
- 10・5 企画展 武雄×津山交流展示
- 「日本を動かす！ 武雄の蘭学」
- 10・5 企画展記念講演会
- 「佐賀藩武雄領の洋学とその背景」
- ・ 武雄市図書館・歴史資料館歴史資料専門官 川副義敦先生
- 11・5 第32回友の会史跡見学会
- 「ジストマ発見者石坂堅社ふるさと」
- ・ 三日月に残る史跡を訪ねて」
- 11・23 企画展「津山藩の英学事始」
- 12・14 日本英学史学会中・四国支部研究例会
- 12・26 オムニバス講演会
- 「洋学あれこれ Part II」
- 3・7 企画展「資料が秘めた物語 II」
- 3・19 新館開館から10年



春季企画展

## 資料が秘めた物語Ⅱ

■会期：令和2年3月7日(土)～6月21日(日)

博物館に収蔵された資料は、その資料が作られてから現在までの長い年月を、多くの人の手を介して守り伝えられてきました。その過程で経てきた出来事が、資料には歴史として刻まれていきます。様々な角度から光をあてて研究することで、資料はその秘められた物語を語り出します。本展では、当館の収蔵資料の中から、8つの物語をご紹介します。

それぞれ物語のテーマは、「榕菴のコーヒー研究と「珈琲」の当て字」、「没後二一〇年 奥津の医師石田春溪の風聞譚・経験談」、「日本初の銅版解剖図「内象銅版図」をめぐる蘭学者の交流」、「ザリガニは葉になる? シーボルトも使った西洋伝来の葉」、「弱った体に最適 吟香のお薬事情」、「コレラに挑む 突如猛威を振った未知の病に翻訳で挑んだ医師たち」、「作者は誰? サインのない肖像画が伝える画家との交流」、「和蘭カルタはどこから来た? 津山の洋学研究のはじまり」でした。

その中でも和蘭カルタにまつわる秘話は、今年生誕100年を迎えた、津山の洋学史研究の先駆者水田昌二郎の業績を教えてください。和蘭カルタは、宇田川榕菴が1821(文政4)年に描いたもので、水田が蒐集して後にご遺族から津山市に寄贈されました。備中玉島に生まれた水田は、県立岡山第二中学校、上智大学予科を経て、同大学本科史学科に進み、宇田川家や箕作家など津山の洋学者について研究します。1946(昭和21)年には全国から研究者を集めて学術学会「日本蘭学会」を結成、その発足記念として津山で「蘭学祭」を3日間にわたり盛大に開催したのでした。

来館者の方々は、「蘭学祭」の様子を伝える写真やパンフレットが残されていることに驚かれ、水田の業績に感心されていました。なお、会期中は新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大を受け、「緊急事態宣言」が出されたので一時的に休館しましたが、休館明けには、「再開館を待ちわびた」という声も寄せられ、企画展への期待の高さがうかがえました。

夏季企画展

## 箕作博士の水族館

■会期：令和2年7月4日(土)

～9月22日(火・祝)



箕作博士こと箕作佳吉は、1857(安政4)年に津山藩の江戸上屋敷で生まれました。この前年、祖父の阮甫は洋学の研究・教育機関である蕃書調所の教授職となり、佳吉の幼少期には、父秋坪が翻訳方として2度ヨーロッパへ出張、二人の兄もイギリスへ留学します。

洋学者一家に育った佳吉は、17歳でアメリカへ留学し、エール大学とジョンズ・ホプキンス大学で動物学を学んで、帰国後26歳で東京大学の日本人最初の動物学教授に就任しました。三崎の臨海実験所の建設に尽力し、多くの弟子を育成して、53歳で亡くなるまで日本における近代的な動物学研究の確立に努めました。

そうした佳吉の功績に敬意や親愛を表し、多くの学者たちが新しく発見した生物の学名・和名を佳吉に献名しています。本展では、佳吉にちなんで名づけられた生物たちの中から、特に魚類を中心に写真パネルにして紹介しました。

来館された方々からは「ミツクリザメは聞いたことがあったが、その他にもこんなにたくさん魚の名前がついていたとは」との驚きの声がたくさん寄せられ、水族館風の展示も好評をいただきました。

なお、本展の企画は、平成29年の第72回文化講演会で神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏先生に「箕作の名をもらった魚たち」と題してご講演いただいたことをきっかけにはじまりました。今回展示した生物写真の収集や解説の監修も、瀬能先生をはじめ同館の皆さまに全面的にご尽力いただきました。

企画にご協力をいただきました神奈川県立生命の星・地球博物館、資料を寄贈いただきましたミキモト真珠島真珠博物館をはじめ、お力添えを賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

NEWS FILE  
下山純正元館長が、名誉館長に就任しました

当館の下山純正元館長が、このたび名誉館長に委嘱されました。下山名誉館長は、昭和54年に当館の学芸員として採用され、平成12年から館長となつて、平成25年に退職されるまで、30年以上にわたつて資料館の活動や友の会の育成を行つてきました。退職後も洋学研究を続けて、山陽新聞に「洋学礼賛」を連載し、昨年研究成果をまとめた『徳川日本の洋学者たち』（東京堂出版）を刊行しています。

かねてから、友の会や研究者の方々の間で「下山さんを名誉館長に」との声がありました。このたび館長としての長い勤務経験や洋学研究者としての学術的・人的交流の実績に基づき、洋学を通じて都市間交流や文化振興をはかるためとして、4月1日（水）に谷口圭三市長から名誉館長の委嘱状が交付されました。交付式後には、今後の洋学振興ビジョンについて、市長や副市長、教育長と歓談しました。



新型コロナウイルス感染症への対策について

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、当館も緊急事態宣言の出された4月18日（土）から5月31日（日）まで臨時休館しました。再開後は、受付にアクリル板や消毒液を設置、ホールやギャラリ、図書室は椅子の間隔を広げるなどの対応をしています。職員による展示解説も、密接してしまうためしばらくお休みです。

また、来館された方には、マスクの着用や入館時の手指の消毒、体温計測、岡山県のコロナ対策サポートシステム「もしサポ岡山」への登録などをお願いしています。ご来館の皆さまにはご不便をお掛けしますが、感染拡大を防止安心してご覧いただくため、ご理解とご協力をお願いいたします。



資料館展示品から

天然痘根絶への足掛かり

種痘を勧める引札



津山への種痘伝来の早さを示す引札

前年に西洋から伝来した痘苗を左右の腕に接種すれば、その部分にだけ疱瘡が発症して全身には広がらず、発熱もせず、通常の疱瘡と同様に経過して治つた後は、二度と疱瘡に感染しない、靈妙不思議の治療法であり、既に日本各地で接種が始まり、効果は実証済みである。イギリスで発明されて以来、数百万人に接種し、その後には疱瘡に罹つた者はいない。昔から疱瘡の死者は数知れず、治つても醜い痘瘡で一生苦しむのは嘆かわしい。そこで、広く多数の人々を救済するため、大坂の緒方氏から痘苗を譲り受け、種痘療法を広めるのである。

引札の記載内容の大意

古代から世界各地で流行を繰り返す、そのたびに多くの人々が命を落とした天然痘は、日本では疱瘡・痘瘡と呼ばれて、恐れられてきました。1796年、イギリスの医師エドワード・ジェンナーが考案した牛痘種痘による予防法は、1849（嘉永2）年6月、オランダ商館医のモーニツケが牛痘苗の取り寄せに成功して以降、急速に日本全国へ普及していきます。

翌年正月、緒方洪庵が足守に除痘館を開設すると、津山藩医の野上玄博は、すぐに洪庵から痘苗の分与を受けました。翌2月、分与された痘苗によって、玄博は津山での種痘普

及に着手します。日本への伝来からわずか8か月後に、津山でも種痘が始められたのは注目すべきことですが、この事業の推進には相当な労力が必要でした。単にその効果が疑問視されただけではなく、牛痘を用いることから「角が生える」などという悪評も流れたようです。そうした風評や先人観をぬぐい去り、種痘の効能や安全性を広く庶民に知らしめようとして作成・配布されたのが、この引札（ちらし）なのです。その大意は右下に示しますが、漢字には読み仮名を振ってあり、少しでも多くの人に読んでもらおうという熱意が感じ取れます。

この時の種痘普及は、玄博の私的な事業でしたが、10年後の1860（万延元）年にはその志を継ぐ4人の医師によって、津山の二階町に種痘館が開設され、その活動は藩の公認を獲得します。玄博たちの地道な取り組みの成果と言えるでしょう。

この引札は、今からちょうど170年前のもので、40年前（1980年）にWHOが高らかに宣言した天然痘の根絶は、100年以上にわたる人類の努力の結晶ですが、予防法の普及に尽力した医師が170年も前の津山に存在したことを、忘れてはなりません。

文：館長 小島徹

# INFORMATION

## 令和2年度の催し物(予定)

## 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「資料が秘めた物語Ⅱ」</li> <li>19-第75回文化講演会 中止</li> <li>19-友の会総会 中止</li> </ul> <p>4月18日～5月31日新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (休館日：6・13・18～30日)</p>	3/7～	資料が秘めた物語Ⅱ
5月	<p>臨時休館 (休館日：1～31日)</p>	～6/21	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会研修バス旅行 中止</li> </ul> <p>(休館日：1・8・15・22・29日)</p>	7/4～	箕作博士の水族館
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「箕作博士の水族館」</li> <li>25-親子でヒンデローペンの作品づくり 中止</li> <li>26-ヒンデローペン絵付け体験教室 中止</li> </ul> <p>(休館日：6・13・20・27・28日)</p>	～9/22	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の化学書からの再現実験教室 中止</li> <li>自分だけの「解体新書」を作ろう 中止</li> </ul> <p>(休館日：3・11・12・17・24・31日)</p>	10/10～	シーボルトと岡山の洋学者たち
9月	<p>(休館日：7・14・23・24・28日)</p>	～11/8	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「シーボルトと岡山の洋学者たち」</li> </ul> <p>(休館日：5・12・19・26日)</p>	11/28～	仁木永祐と初山鑿をめぐる人々
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 中止</li> <li>企画展「仁木永祐と初山鑿をめぐる人々」</li> </ul> <p>(休館日：2・4・9・16・24・25・30日)</p>	～2/21	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会</li> </ul> <p>(休館日：7・14・21・28～31日)</p>		
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員による研究報告会</li> </ul> <p>(休館日：1～4・12・13・18・25日)</p>		
2月	<p>(休館日：1・8・12・15・22・24日)</p>		
3月	<p>(休館日：1・8・15・22・23・29日)</p>		

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



シーボルト記念館所蔵

シーボルトは1823(文政6)年に長崎出島のオランダ商館付き医師として来日し、日本人に西洋の知識を伝えて、洋学の発展に大きな役割を果たしました。現在の岡山県域からは、石井宗謙、児玉順蔵、石坂桑亀の三人が鳴滝塾に入門し、津山藩の洋学者では宇田川榕菴や箕作阮甫が江戸で交流しています。シーボルトの生涯と業績、そしてシーボルトと交流した岡山の洋学者たちについてご紹介します。

会期 令和2年10月10日(土)～11月8日(日)  
会場 津山洋学資料館 企画展示室

### — 職員の異動 —

(異動) 館長 仁木康治  
(着任) 館長 小島 徹  
令和2年4月1日付

## ご利用案内

- 開館時間/9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

### ■ 入館料/

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



### ● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分